



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2024年05月13日 第1167号「週刊五十嵐レポート」

人材

5月9日付日経新聞、「新入社員4割が転職検討」という記事。新卒や入社数年の若手社員の早期退職が目立つ。調査では、新入社員の4割以上が転職を検討。深刻な人手不足が続く中、有望な人材を繋ぎ留めることが企業経営に重要になってきている。

5月6日付日経新聞、「ヴィトンも頼る伝統工芸」という記事。「ルイ・ヴィトン」など世界の高級ブランドが製品開発のパートナーとして日本の伝統工芸を頼っている。職人などの担い手が2050年代に現在から4割減り、地域によっては消滅する可能性がある。世界に日本の魅力を発信する伝統工芸を残すために、海外市場を開拓したり、女性職人らの後継者を育成することが急務になっている。

5月10日付日経新聞、「外国人材、中小で管理職に」という記事。中小企業で外国人が管理職として活躍し始めた。語学力や海外人脈を生かし、海外調達や販路拡大等の活躍を見込んで登用するようになった。あらゆる業種で人手不足が深刻化する中、外国人材を本社の要職に登用して人材確保を目指す中小企業が増えている。

3つの記事に共通する言葉は、「人材育成」「人材教育」。その根本は、「会社や組織をどう運営していくのか」という問いの答え。「マネジメント」という言葉が思い浮かぶ。「マネジメント」というと、「ドロッカー」が出てくる。

「マネジメント」の役割の1つに、「仕事を通じて働く人たちを生かす」がある。本気で取り組む仕事。働くことは喜びや自己実現につながる。それぞれの人の得意とする分野を見極め、責任ある仕事を与え、成果を出す。それに対するフィードバック情報を提供する。そしてみんなが安心して働けるための環境を整備する。これらはマネージャー(小さな会社では社長)の仕事。

入社して1ヶ月余りで転職を考えている人に得意な分野を見極めることや責任ある仕事を与えることは難しい。裏を返せば、新入社員の6割弱(大半)は転職を考えていない人たちである。その人たちを教育育成して、仕事に対する喜びや自己実現につなげるようにすることが企業・組織を発展させる。

ちょっと
気になる出来事

5月12日付日経新聞、「中国、過剰供給、世界と摩擦」という記事。中国の安価な電気自動車(EV)や太陽光パネルの輸出が急増し、世界で摩擦を引き起こしている。米国や欧州連合(EU)は中国製品の急増に警戒を強めている。米国では中国製EVなどに課す制裁関税を引き上げる見通し。

4月28日付日経新聞、「中国EV生産変調の兆し」。工場の稼働率の損益分岐点は8割前後だが、EVを含む新エネルギー車は5割まで下がっている。需要を上回る生産能力の拡大が要因。経営破綻する新興EV企業が相次ぐ。供給過剰分は海外にあふれ出て、EVの価格競争に拍車がかかる。

5月11日付日経新聞、「中国EV、南米で台頭」。5月12日付日経新聞、「中国メーカー、インドネシアEV市場に的」。

最近の日経新聞では中国製EVが世界にあふれている様子を記事にしている。中国国内では多産多死状態。中国では成長産業では常に「多産多死」政策。生き残る数社のみが果実を得るように仕組んでいる。(家電、スマホ等)正に漫画「キングダム」の世界。日本企業はこれに巻き込まれないように。現実的には、ガソリン車、ハイブリッド車、そしてEV。違う土俵でどう戦うか。



一口メモ
知識

事業

化(か)してこれを裁(さい)する、これを変(へん)と謂(い)い、推してこれを行う、これを通(つう)と謂い、挙げてこれを天下の民におく、これを事業と謂う。

時に応じて物事を切り盛りし、適宜(てきぎ)に処置して変化させ、さらに推進して物事を通じさせる。

この変通(へんつう)の道理によって社会の道を整え、民を導くことを事業という。

これは「事業」の語源となった言葉である。本来、事業とは社会貢献を指すものであった。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL.03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

